

やその他で、冬期灌溉栽培による牧草作りが興味深く進められ、毎年毎年、無肥料で二、三、〇〇貫の生草が得られているが、ここにもイタリアンライグラスの進出が著しく、

ペレニア
ルライグ
ラスやコ
ンモンラ
イグラス
(兩者と
もイタリ
アンライ
グラスと
近縁であ
る)とと
もに、在
来の灌溉
牧草地を
優占して
良い成績
をあげて
いる所が
見受けら
れ、ある
場所では
イタリア
ンライグ
ラスやコ
ンモンラ
イグラス
が導入さ
れてから
急激に
ふえて、
チモシー
や赤クロ
バールを
、数年の
間に駆逐
してしま
つた例も
ある。勿
論もと
通り、チ
モシーや
赤クロバ
ールの優
占してい



生育中のイタリアンライグラスの圃場

る良い灌溉草地もあるが、しかし、一般的に見て、イタリアンやコンモンライグラスが灌溉草地の最良最適の草種であるかどうかは目下疑問であるとしても、注目に値する草種に間違いはない。

んことを切望する次第であります。

(雪印種苗・上野幌育種場)

間違いは

以上述

べたよう

に、栽培

用途の極

めて広い

素晴らし

い性能を

もつたイ

タリアン

ライグラ

スの作り

方二、三

について

御紹介

し、酪農

家の注目

に値する

良草とし

て、ます

ます栽培

普及され

根釧原野

パイロット・ファーム見聞記

長谷部 徂 広

北海道の東北部、根室、釧路地方にはまだ広大な原野が未開発のまま残されている。

ここ根釧原野に北海道総合開発の一部として豊富な資本を投じ、大規模な機械力によつて開拓するという先駆的試験農場がある。さる七月下旬に近藤隆氏と二人でこのパイロット・ファームをたずねた。札幌から急行で「挽歌」で有名な釧路まで十時間、以前狩勝峠から眺めた十勝、釧路の雄大さに歓喜したものだが！ 釧路から網走行にのりかえ、貨客混合列車で山のように積んだ木材をカーブで見、また車窓から眺めるヌマガヤ等の野草の中にアヤメが可憐に咲いている様子は、観光客にとつては雄大さとともに喜ばしい光景であろう。しかし、酪農に経験または関心のある者は、山のような木材を見ては開発の喜びは味わえても、野草とヤセタ牛二、三頭をみては、秋の枯野を想いだし、胸をおさえるものがあると思う。

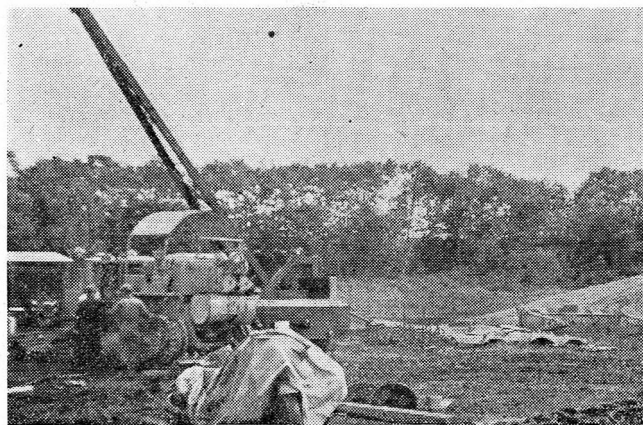
大したものでないです。私の家はこの原野でも古い方なのですが——ええ酪農です。今では原野一ともいわれる畜舎もあります。今度のは旅行で考えさせられましたよ。ええ、札幌の方へ酪農視察の帰りなんです。……牧草ですか！ ととても、いい牧草を作っているところなんかありません。ほとんど野草で経営です。まだまだ牧草を作る自信がこのあたりの人達には無いです。この気候、土壌でしよう。だから馬が主体になるんです。乳をしばって生活することが、これからの農業に必要なことは理解はしているんですよ。それでも牛は申し訳けみたくないもので、ええ、牛乳は西別の雪印の工場で……牛を飼いはじめること、よい牧草がつくづくほしいと思います。江別の町村さんが泥炭、札幌の宇都宮さんが火山灰と、土地条件がこの辺と似ているところでもあんないい牧草を作っているのを見ると——私もやりますよ。いい牧草を作ってみます。青年は見学の夢さらず明日への希望を胸にいだいているのであろうか、車窓から静かに野草の原をみつめた。一時間半で標茶から再びのりかえ、さつきの平地とは違つてバス型の気動車で、はてしなく広がる原始林の中を行く。カシワ、ナラ、

(後で解つたのだがパイロット・ファームの人達も近所の人達も、略してパイロットと呼んでいるらしい)へ行くのですか。私はその隣村なんです、まだ行つてみません。

話かけて来た。「そうですね、パイロット

シラカバ等の木々をぬうように。

一時間余で中標津、のりかえて二十分まで目的地の駅春別に着く。小さな駅、小さな街、それでも活気に満ちている。パイロット・ファームの大きな看板を目当てに一五分位で、小川と丘を従えた本部が目につく。この山奥に完備された(平屋ではあるが)近代的な建物(事務所、クラブ、農具並びに機械庫、職員住宅等)が並び、自動車(乗用車はみあたらず、すべて実用的な車ばかりとみた)や、巨大な機関(レキドーザー、ブルドーザー、トラクター等)が動いている。活気はここから発しているのだ。



開拓に活躍する農機具の整備

一時間余待つて営農所長が現地より帰り、私達を中心部まで案内してくれた。本部横に着けられた中型トラックに四名がとびのつた。(一名は根室支庁の職員とのこと)門を出ると早速、営農所長は事業の内容を説明してくれる。今通っているのが根室へぬける道道(県の県道の意味と同じ)で、もう少し行くとパイロットへ入る道があります。パイロットの道は……、太い体をゆきさぶりながら話す。この事業は、開拓のモデルとして出発した根

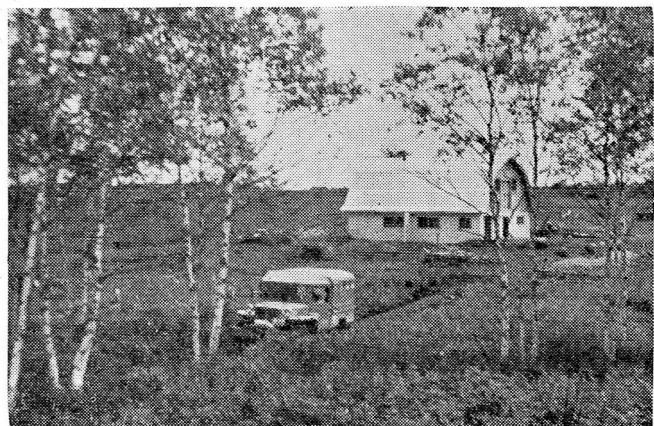
罫床丹第二地区で着工して満三年目、この根罫原野は強烈な寒冷地で、ガス(海霧)が多く日照が少い。摩周系火山灰土壌が大部分を占め、酸性が強い。多くの悪条件をそなえているため、これまで幾たび、入植者が開拓の苦闘を続けたかわからなかった。そしてその多くの人達が失敗している。乏しい資力と人力だけの開拓によることが、失敗の大きな原因となつてい

る。そのため国(北海道開発局)、北海道庁、農地開発機械公団の三つが協力し、ここにこの事業に着手したのである。

道道からパイロット・ファームの方向に折れると、まだ新しい道——火山灰の赤い地肌が見える。遠々五十軒の長さの道路網を持ち、全部この幅だという。(十二、三米に排水路

がある)着手する前はこの波状台地形(この一帯は標高四〇〇〜六〇〇米の緩波状台地形で北より南へ連立し、春別川、床丹川の支流が西方より東方へ流去している)カンソ、ナラ、シラカバ、ミヤコササ、ハギ、カヤ等が茂りうつつそうとしていた。道路の整理された両側には、黒い土が多いので聞くとき攀土性土壌の特色で、一見肥沃な感じを与

えるが、燐酸吸収係数が高いとの説明だ。この営農所長はなかなかくわしい。(体ががつちりしているのは柔道をやっているとのこと、毎日現地へ直接指導に当られるのは、この体からだといわれた)約八軒も走り続けると、さてここからだ! 所長は体をのばして説明する。なるほど三年前の想像は車中で出来たが、今見わたすと、点在するピンクのブロック住宅、畜舎、サイロ、たわわに実るライ麦、燕麦、ナタネ、立派な経営だ。



営農の拠点として疎林が開かれ耐寒建築が出来る

この農場への入植者は、農業の経験者で二十五万円の自己資金を有しているものから選ばれ、その経営の主人は、一年間現地で新しい開拓営農(草地農業即ち酪農形態の農業経営)の学習と実地についての訓練をうけた。その間入植予定地は機械公団の各種の機械力によつて開墾され、すぐ作付出来るように整地、一町歩当り炭カル三トン、溶性燐肥一トンの撒布と、土壤改良までして家族を呼ぶ。勿論、入植農家の住宅は街でも都市でも、ちよつと見られないような耐寒、耐震の十分な近代的建築だ。営農所長は自分の設計のようにうれしそうにいう。でも標準以上

の設計は各入植者の自由とのこと。家族の構成人員は五名以上で、労働換算人員二・五人以上という。

途中測量技師との同乗のため奇道する。家のそばまで行くのだ。ライ麦もレブも、又馬鈴薯も札幌近郊の作物の生育状態と、あまり変わりなく実る畑の中のまだ完成はされてい

ない小道に入る。(生育時期は一月程おそいようだが)つらなる防風林、実る畑のまわりには、巨大なレキドーザーにおこされた大木の残骸が横たわつている。この家はほとんど完全にそつたさうで、堆肥場もわずかながらわらが盛られていた。なる程立派な住宅、畜舎だ。そばによるとペイントの臭いがまだ鼻をつくようだ。畜舎の中は馬とニワトリだけで、乳牛はシャーシー種が明日入るとのこと、各戸に二頭ずつまず入れるそう。近藤氏はカメラであちこち写している。そこをでて又本道をとつて帰す。再び奥へ、途中道路工事、排水工事を行つていのがみえる。一戸当りの面積は相当広い、隣りに行くのに十分くらいかかるようだ。営農の概要を説明してもら

パイロット・ファームの全面積

一戸当り配当面積 四六一・九・三町歩

内訳 1 耕地 一八・八町歩

2 耕地防風林 一四・四町歩

3 薪炭備林地 〇・七町歩

4 採草地 一・八町歩

5 宅地 一・六町歩

〇・三町歩

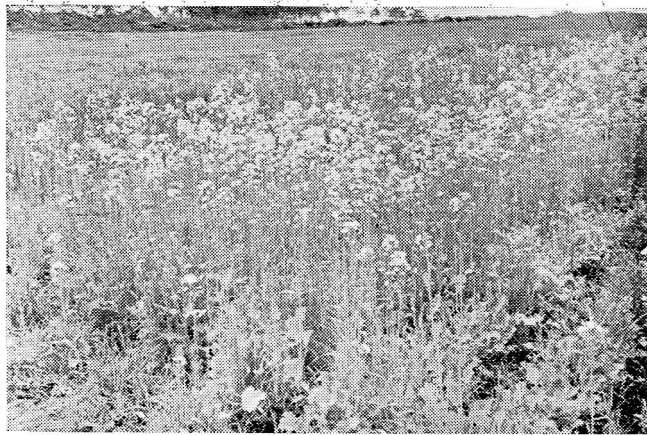
作物の作付は、営農所が各研究機関のデーターや、この地方の特色を考慮して、次のような標準個別作付反別形態をしている。
 大麦―五反、燕麦―一三反、青刈燕麦―六反、牧草―七反、菜種―四反、そば―五反、馬鈴薯―六反、甜菜―二反、青刈なたね―一反、稗―二反、ルタバガー―二反、玉蜀黍―一反。

圃場は七区に区画される。

区別	1	2	3	4	5	6	7	計
作物別作付面積 (数字は反)	燕麥 (牧草播) 9.0	燕麥 (牧草播) 4.0	青刈燕麦 (牧草播) 7.0	牧草 (單播) 7.0	馬鈴薯 甜菜 6.0 2.0	ルタバ 2.0	(自由) 黍 1.0 菜 1.0 他 7.0	
	計	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	57.0

註 1 区 牧草(放牧用) ラデノクロバー、ケンタッキー31
 2, 3, 4 区 牧草(乾草用) フエスク、チモシー、
 5 区 牧草(乾草用) レッド・クロバー、
 6 区 牧草(乾草用) チモシー、イタリアンライグラス

このうち、食糧用として大麦、そば、馬鈴薯、販売用として菜種、馬鈴薯、甜菜、飼料用として燕麦、馬鈴薯、玉蜀黍、稗等が当てがわれる。
 だいたい中心部、本部より十六軒にわたる。営農に特に熱心な渡辺さん宅に案内して下さる。住宅に入ると、まだ木の香りも新しい。居間はコンクリートで土足のまま食堂



このうち、食糧用として大麦、そば、馬鈴薯、販売用として菜種、馬鈴薯、甜菜、飼料用として燕麦、馬鈴薯、玉蜀黍、稗等が当てがわれる。
 だいたい中心部、本部より十六軒にわたる。営農に特に熱心な渡辺さん宅に案内して下さる。住宅に入ると、まだ木の香りも新しい。居間はコンクリートで土足のまま食堂

秋まき菜種はもう花がさいている

「仕事は、上川で水田をしていたので、まだ一年生だが楽しい。数年間は無我夢中で。これからは牧草の研究です」と小柄なそして日にやけた顔がほころびる。圃場を案内してくれる。家のまわりは蔬菜類、五位はなれて、そば、菜種が黄色い。チモシー、レッドクロバーが混播されている。チモシーに病氣(銹病)がついて困るのだが、何かいい方法はと質問される。波をなす丘はかぎりなく続いているようだ。一時間程見学させていただき帰路につく。渡辺さんは今日は、明日来る牛のための準備ですよと嬉しそうな手をつて送る。出来れば現在開墾している現地までいつて見たかつたが、十軒位奥になり、所長もいそがしく、車の便がないようなので残念だがあきらめた。

三年目でこれだけの成功は、機械による開墾である。抜根―排根―荒起―砕土―整地(土壌改良を含む)とすべて機械力である。六トン(二四トンのレーキドーザー)一九台、トラクター二台、ブルドーザー三台、その他十台位の機械力が原野にエンジンの音をひびかせる。思っただけでも愉快だ。勿論、これには動かす人間の力があいまつてはじめて出来ることだ。本道の開拓事業の二割も不振地区があるのは、その原因が多く建設工事の立遅れによるものであるのとくらべると、両者の差があまりにも大きい。

「仕事は、上川で水田をしていたので、まだ一年生だが楽しい。数年間は無我夢中で。これからは牧草の研究です」と小柄なそして日にやけた顔がほころびる。圃場を案内してくれる。家のまわりは蔬菜類、五位はなれて、そば、菜種が黄色い。チモシー、レッドクロバーが混播されている。チモシーに病氣(銹病)がついて困るのだが、何かいい方法はと質問される。波をなす丘はかぎりなく続いているようだ。一時間程見学させていただき帰路につく。渡辺さんは今日は、明日来る牛のための準備ですよと嬉しそうな手をつて送る。出来れば現在開墾している現地までいつて見たかつたが、十軒位奥になり、所長もいそがしく、車の便がないようなので残念だがあきらめた。

三年目でこれだけの成功は、機械による開墾である。抜根―排根―荒起―砕土―整地(土壌改良を含む)とすべて機械力である。六トン(二四トンのレーキドーザー)一九台、トラクター二台、ブルドーザー三台、その他十台位の機械力が原野にエンジンの音をひびかせる。思っただけでも愉快だ。勿論、これには動かす人間の力があいまつてはじめて出来ることだ。本道の開拓事業の二割も不振地区があるのは、その原因が多く建設工事の立遅れによるものであるのとくらべると、両者の差があまりにも大きい。

と努力によるのみ。
 十年後の根釧原野には、このパイロット・ファームを中心として全地域に集約酪農がおし拡げられ、不毛の土地も明るくなることだろう。
 再び広々とひろがる畑、完成される開拓部落の中を、十年後の夢を頭にうかべながら帰る。
 (雪印種苗・上野幌種畜場)



燕麦もこんなに伸びて来た

ている。1 建設工事の先行、2 機械開墾、3 多額の投融資金。乳牛も二カ年で四頭導入と明るい開拓ぶりだ。最近道庁のアントツ男(開拓者が苦境を訴えるため、道庁の煙突に昇つた事件)が北海道の各新聞をにぎわし、入植者の不均衡が問題になったが、今後のすべての開拓はこのようであらなければならないだろう。完成の後には各戸の研究